

「しんのすけPRESS」

— 福岡市議会議員 阿部 真之助 議員活動レポート —

ロープウエーの実現可能性に関する検討経費の削除修正案可決について

— 本会議終了後の高島市長や他会派代表の発言を聞いて思うこと —

自由民主党福岡市議団が提案した「ロープウエーの実現可能性に関する検討」経費5,000万円の削除修正案が、議長を除いて39対20で可決されたことは、市議会において2元代表制の良い部分が具現化された象徴的かつ歴史的な出来事であったと安堵しています。

まず福岡市がやるべきことは、福岡都心部の渋滞解消のために事業費約18億円を投入した都心循環型BRTの効果検証と、更なる混雑解消に向けたフリンジパークの設置であると、我々は訴えてきました。また、予算の審議をしている最中であるのに、3月1日号の市政だよりにおいては、市民を誘導するために、ロープウエーが他の交通システムよりも優れているかのような表現を用いていたのは、周知の事実であります。条例予算特別委員会の我が会派の質疑において、議会軽視であるとの指摘に対して、副市長の答弁は、「議会や市民の方々にそう思われるのは不本意である」の繰り返しでした。極めて残念です。市民の代弁者である議会への論理的な説明並びに適切な手続きを、行政には心掛けて頂きたいと思っています。

政治家にとって選挙公約が重要であることは言うまでもありませんが、高島市長が議会への不親切な説明や行政手続の瑕疵を反省せずに、市民の幸せにならないことならば、撤退を決断することもリーダーの責務だと発言し、ロープウエーの検討を断念したことは、政治家として選挙公約自体も軽んじているのと同時に、首長としての責務を正確に理解していないということの証明だと思っています。

自治体の議会と首長の関係は、「車の両輪」に言われるが、車軸に繋がった両輪は常時同じ方向・スピードであるのに対し、議会は首長が編成・執行する予算を点検し、改めるべき点は改め、その方向性に誤りある時はブレーキをかけることが当然であり、様々な議案や条例案に対して、我々は是々非々の立場で議論すべきだと考えます。

福岡市議会においても、「市長を支える」と宣言して結成された会派が存在する上、市長の方針に反対した会派に対して、市長自らの「野党になるということなのか」等の発言を考えたときに、議会と首長の関係が、狂いが生じている「車の両輪」「一輪車」の状態にあるならば、その状態から脱却するために、今こそ我々は、正しい民主主義の下、正しい地方自治制度が想定している議会の本来あるべき姿を、徹底的に追求していかなければならないと考えています。

最後に一言、どんな状況であっても、誰にも臆することなく、勇気をもって正論を語ることができる議員として、全力投球で議員活動を続けてまいります。